PMI 日本支部 ニューズレター



Column / 理事であいさつ
Column / 他国カンファレンス 7
Activities / 支部活動 ··············· 13
PM Calendar / PM カレンダー ······ 15
Fact Database / データベース ······ 16
Editor's Note /編集後記 ······ 20



Column / 理事であいさつ PM コミュニティ活性化担当 会長 監事、PMI リージョン 9 メンター 副会長 国際連携担当	·· 奥澤 薫 ·· 神庭 弘年 ·· 片江 有利
PM コミュニティ活性化担当	
PMコミュニティ活性化担当	
ミッション、組織拡大担当	·· 武上 弥尋
Column /他国カンファレンス ····································	
• 2016 PMI 韓国大会に参加して	PMI日本支部 理事 鈴木 安而・中嶋 秀隆
• PMI日本フォーラム2016のご案内	
PM Calendar / PM カレンダー ······	
PMI日本支部関連セミナーPMI日本支部関連イベント	
Fact Database /データベース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	16
Editor's Note/編集後記 ······	

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。
「ITIL®(IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Column/理事ごあいさつ



PMコミュニティ活性化担当 麻生 重樹 (あそうしげき) 日本電気 株式会社 金融システム開発本部 システム主幹

2013年より理事を務めております麻生重樹です。

私がPMI日本支部内の活動をはじめたのは2012年8月に法人スポンサー連絡会の中にある「若手PM育成スタディグループ」からで、他理事や諸先輩方、そして皆様日本支部会員の中でも比較的新しい方だと思います。1期目は、現役世代の理事として、また新しい視点でPMIの活動ならびにPMI日本支部の活動を法人スポンサー連絡会や企業内(関連会社、パートナー会社含む)で発信展開することや、月例セミナーの冒頭ご挨拶、PMI Japan ForumやPMI Japan Festaの交流会を通して参加された方々と交流を深め活動内容や要望等の意見交換を積極的にさせていただきPMI日本支部の活動をより多くの方にご紹介すること、ならびに活動を通じて日本支部会員の増加や法人スポンサーの加入促進に主眼をおいて活動してまいりました。

また昨年からはPMI日本支部内の戦略委員会の1つとして「PMコミュニティ活性化委員会」を立ちあげ、各委員会や研究会間の情報横連携を深めることで、活発に活動されている各会員の皆様に従来の活動の枠を超えた人脈形成を支援する仕掛けづくりに取り組んでおります。そして、約3200名強いらっしゃる現支部会員に支部活動の意義を見いだし、皆様が真に支部会員であるメリットを感じて、今まで以上にActiveな活動をいただくことに取り組んでいます。

一方でGlobalという視点では、PMIという全世界に約47万人もの会員Globalな組織であることをFullに活用し、特に成長著しいアジア地域の各国の支部との連携を促進し、プロジェクトマネジメントにおけるグローバルな組織としての日本支部の強みが生み出す価値を、各種会員の皆様に還元していきたいと考えております。これまでPMIのAP-LIM(Asia Pacific Leader Institute Meeting)での日本支部の活動紹介やPMI香港支部の年次総会への参加、ならびにPMI Japan

Forumに来賓されるAPメンバとの交流を深め、情報連携を密に実施することで、日本支部の活動を広くAP内で認知していただくとともに、会員の皆様にGlobalレベルの最新の活動情報を展開することを継続していきたいと考えております。



会長 奥澤 薫 (おくざわかおる) KOLABO 代表

PMI日本支部を含むPMIの活動は、積極的に活動していただいている会員の方から理事に至るまで、ボランティアの活動に支えられております。PMI日本支部の活動は、会員皆さまによる皆様のための活動であり、一層のご支援をよろしくお願いいたします。

さて、昨今の世の中は激動に翻弄されています。一進一退の米国の景気回復や、新興国の成長鈍化により、消費税の税率UPも遂に先送りとなり、財政再建の見通しに不透明感が増しております。

しかし、各企業の皆様は、厳しい競争の中、技術革新や新 規事業への取り組みを途絶えさせることできません。

こうした中で、企業の目標を達成するには、単に個別プロジェクトを失敗させない取り組みだけでは実現できません。 個々のプロジェクトを企業の戦略や目標に整合させることが 益々欠かせなくなっています。

一方、企業は、組織を抜本的に変えてでも、新たな仕組み や価値体系を取り入れるようとしています。そのため、組織 を変革できる人材や手法を切実に求めています。

PMI本部は、こうした流れを捉え、一連の活動を戦略的に展開しています。PMI日本支部も、PMI本部が提供するグローバルな最新標準やレポートを、皆様により広く共有していただくよう、翻訳や日本語版の出版、WEBへの掲載、セミナーの開催を行っております。

昨年の中部ブランチの設立を受け、ブランチとしての着実

な活動と発展を支援していくとともに、地域に密着した活動 を拡げるよう進めていきたいと考えております。

来年度から始まる次の中期計画を通して、会員の皆様により価値のある情報と、よりよいサービスを提供できるよう、機構改革を進めてまいりました。その中で、戦略委員会の設立、委員会の再編、研究会・委員会・プロジェクトの整理、部会のリーダーを一堂に会してPMI日本支部の目標や活動の方向を共有するリーダーミーティングを開催しました。今年度は、これらの機構改革を集大成したいと考えております。

引き続き、PMI日本支部の活動にご理解とご支援を賜るようお願い申し上げます。

またがって最先端の研究が進んでいるグローバル団体は他にありません。プロマネの倫理規定に同意することが会員の条件となっている事もとてもユニークです。しかしこれらがお題目というのではなく、倫理規定の改訂検討委員会、その活動をレビューする委員会もあり、プロマネとしての人格の一部として大切にされているのです。

今後、任期の3年間を通じて、これまで(理事、会長)とは違う役割でPMI日本支部を支え、北東アジア域の各国のPMI支部とも連携しながら、この分野のNo.1の団体のもつ膨大な知見や、ボランティア・パワーを紹介し、連携して行きたいと思います。



監事、
PMI リージョン9メンター
神庭 弘年(かんばひろとし)
神庭PM研究所
代表

今年から、監事を担当させていただくことになりました、 神庭です。

監事は理事会を含めPMI日本支部の運営が健全、適切であることをモニターし必要なら是正を提議するという役割になりますので責任重大です。公平を保つために議事決定の投票権をもっていません。もちろん、理事会に是正を要求するような事態は過去一度も発生せず、民主的かつ健全に運営されていることを申し添えておきます。このような仕組みと体制を持っている事はPMI日本支部の会員として、誇らしく思います。

また今年からPMI本部のNortheast Region Mentorの役割も担当する事にいたしました。北東アジア域というのは、日本、韓国、台湾、香港、モンゴルを指し、各国のPMI支部活動を支援・指導する(Mentor)という役割になります。日本人として初めて、もちろん私にとっても初めての経験となります。PMIはボランティア活動を中心におくPMのための世界最大規模の、他に類のないユニークなNPOです。

私も1ボランティアとして、少しでも役に立てたらという 気持ちで、お引き受けしました。

会員の皆様、これから会員になってみようかとお考えの皆様、PMIほど自由闊達、かつ会員の意思を重視し、しかもプロジェクト/プログラム/ポートフォリオ マネジメントを



副会長
片江 有利 (かたえありとし) 株式会社 プロシード 事業開発部長 シニアコンサルタント

"デジタル化"や"IoT"に象徴される技術的変化とグローバル化の波によって、既存ビジネスの基盤が破壊されようとしている今日、環境変化に適応し、機敏に自らを変革するには、必然的にプロジェクト型で新たな行動に踏み出さざるを得ない。

変革プロジェクトの推進に向け、プロジェクトマネジメントを理解し、駆使できる人材の育成は組織にとって急務と言える。PMI日本支部はその変革のためのプロジェクトマネジメントを推進する人材育成に向け、最新の知識の普及等の支援を行っており、役割はますます重要であり、その期待に応えられるよう様々な改革に着手している。

2014年から、企画担当理事としてそれまで担当していた ミッション委員会担当時に策定した中期計画の戦略、施策推 進のために、企画委員会での企画に加え、ミッション委員 会と連携し、2017年度に新体制発足に向け新委員会の組成、 企画委員会のあり方の見直し等の改革に取組んでいる。

またPM認知度の向上に向け、行政や外部のPM周辺団体とのチャネル作り、連携に取り組んだ結果、情報サービス産業協議会(JISA)プロジェクトマネジメントコミュニティの設立に漕ぎつけ、今年度より活動を開始し、PM組織成熟度やPMの地位向上に取り組んでいる。

IT業界のPM出身者が多い理事会にあって、数少ない金融

業界出身者として、また現在はコンサルタントとして培った 経験を活かし、PMI日本支部に異なった視点を持ち込むこと によって、プロジェクトマネジメントの普及促進と日本支部 会員向けサービスの向上のため引き続き貢献して参る所存で ありますのでよろしくお願い申し上げます。



国際連携担当
杉村 宗泰 (すぎむらのりやす)
日本マイクロソフト株式会社
エンタープライズサービス部門
SQA/PMO マネージャ

国際連携委員会を担当杉村宗泰です。

国際連携委員会は、PMI日本支部会員とPMI本部また PMIリージョン9と呼ばれる地域に属する台湾、韓国、香港、モンゴル支部間の円滑なコミュニケーションをサポートする と同時に、英語ベースの情報を日本へ紹介し、逆に日本の情報を海外へ発信しております。

特にリージョン9の国々とは人材交流の他、現地企業での プロジェクトマネジメントの実情をインタビューの上、PMI 日本支部会員にお届けしてまいりました。

今後は、これまでの情報交流を強化することを目的に、積極的にリージョン9へPMI日本支部会員を派遣し、現地のPMIカンファレンスやコングレスで日本の情報を発信する場を設けると共に、現地のプロジェクトマネジャーとPMI日本支部間が現場レベルでコミュニケーションを行うチャンスを拡大し、人材交流を強化します。

加えて、Program ManagementおよびPortfolio Managementについてアジア・パシフィックセンターと協業のもと、PPPMと言われている領域を強化してまいります。具体的には、Program managementとPortfolio Managementについての情報発信の強化、教育機関へのサポートおよび日本語での受験に向けた準備を行ってまいります。

国際連携委員会では、他の委員会やワーキンググループ、研究会と協力し、今後もPMI日本支部会員が支部会員であることの価値を実感できるよう努力する所存でございます。引き続き、皆様のサポートおよびPMI日本支部活動への積極的な参加を賜りますよう宜しくお願い致します。



PMコミュニティ活性化担当 竹内 正興 (たけうちまさおき) 一般財団法人 国際開発センター 理事長

2014年より新任理事として、1期目を務めさせて頂きました。皆様との接点はまだ浅く、ここに改めて自己紹介させて頂きます。

大学で経営、生産管理、コンピューターを中心に学んだ後、 富士フィルムで産業財のマーケティング、経営企画担当とし て各種プロジェクトの計画、製造、販売に関わりました。

その後、留学を経て、国際協力を専門とするシンクタンク (財)国際開発センターへ入職し、途上国を中心にチームを率いて数多くの国際協力プロジェクトのプロジェクトマネージャーを務めました。

現在は組織の長として、組織経営、マネジーメント全般に 携わっています。

プロジェクト管理には評価のシステムを組み込むことも必要であり、(NPO)日本評価学会の理事、事務局長として評価慣行の普及にも関わっております。

この様な経験が、今後のPMI日本支部の更なる発展に少しでもお役に立つことを願っています。

具体的活動としては、PMI外の世界より理事として係りを持ち、まず組織の活動を理解することに重点を置いてきました。また広報・宣伝担当理事として、PMコミュニティー活性化委員として活動してまいりました。

ボランティアでこの規模の組織を維持、運営していくことは素晴らしいことであり、2期目にあたってはこの基本を踏まえつつ、更なる発展のためにより組織マネージメントの強化を図る所存です。折しもタレント・トライアングルの導入が意識されている最近、従来のテクニカル中心のPM活動、育成から、マーケット、経営、リーダーシップの観点を強く意識した、新たなPM像の創成が必要とされています。

これはPMI日本支部の更なる発展には不可欠な視点であり、新たなPMの活動分野を開拓し、また事務局の経営マインドをさらに高めることも必要となり、この分野での努力を行ってまいります。



PMコミュニティ活性化担当 髙橋正憲 (たかはしまさのり) PMプロ有限会社 代表取締役

中堅電機メーカーにて製品開発、経営企画など15年、日 本アイ・ビー・エム(株)にて業務改革コンサルタント、プロ ジェクト・マネジャーを20年務めた後、現職に就きました。 2003年にPMI日本支部に参加して、PMBOK®委員会、 組織成熟度研究会、ポートフォリオ/プログラム研究会、 PMO研究会のみなさんと共に活動してきました。

2008年から4年間は理事(コンピテンシー担当)として PM標準類の調査・研究・普及活動に協力してきました。そ の間、PMI日本支部書き下ろしの「戦略的PMO」、「PMツー ルの実践的活用法」の執筆・監修に携わりました。

2011年の東日本大震災の後、被災地の復興のために「災 害復興支援プログラム」を進め、プロジェクトマネジメント を活用して支援を行ってきました。

2012年から4年間は理事(社会貢献担当)として社会的な プロジェクトに専念し、復興支援の活動から得られた教訓に 基づいて「社会課題を解決するためのプロジェクト」を研究し、 普及するために「ソーシャルPM研究会」を立ち上げました。

ソーシャルPMの手法は、ITプロジェクトとは異なり、デ ザイン思考のアプローチを応用した新しいフレームワークです。

今年からは理事(PMコミュニティ活性化担当)として、 また新しい取り組みを始めたいと考えています。それはPMI 日本支部のようなコミュニティをどのように運営していけば 持続可能な価値提供が出来るかを研究することです。それに はソーシャルPMの研究で培ったノウハウが大いに役立ちます。

そこで、次のような方々にご協力をお願いしたいと存じます。

- ◎ PMのスキルを社会貢献に活かしたいと考えておられる方。 プロジェクト・マネジャーの活動の場を社会的プロジェク トに広げましょう。
- ◎とくに、毎年卒業されるベテランPMの方々にご活躍いた だきたいと思います。
- ◎また、企業の社会貢献にご関心のある方に、新しい経営の 視点である CSV (Creating Shared Value: 共有価値の創造) に適するPM手法について共同研究を呼びかけたいと思っ ています。



ミッション、組織拡大担当 武上 弥尋 (たけがみやひろ) 日本アイ・ビー・エム株式会社 Associate Partner

2014年より理事の機会を賜りました武上弥尋です。

私自身はIT系企業にてプロジェクトマネジメントを中心 に活動し、この10年強はアウトソーシングのプログラムマ ネジャーとしてお客様へのサービス提供に携わって参りま した。PMIとの出会いは1999年のPMP取得がきっかけで、 PM同士でのコミュニティ活動の楽しさや、自社の全社PM プロフェッション・リーダーとしての活動等を通じ、PMIの 持つ価値や広がりある世界を実感してきました。

理事としては、マーケティング・会員を担当、ステークホ ルダー委員会、組織拡大委員会、2016年からはミッション 委員会にも参画しております。それらの活動を通じ、PMIの もつ多くの標準類や、コミュニティ活動から得られる知見や 機会を、どうすれば活用・実感・共感いただくことができる かを考えてきました。

PMP®やPMBOK®の印象が強いPMIですが、現在は5 つの基本標準や8つの認定資格を有し、認定者数は全世 界で76万人(8認定合計)、会員数は48万人(いずれも 2016/3/31現在)を突破、現在も刻々と成長を続ける業界 標準団体かつコミュニティです。社会動向を踏まえ、戦略的 に重点分野を設定、古くはProgram/Portfolio Management、 最近ではBusiness AnalysisやAgileなど、時代の要請に応 えるPM力を常に幅広く高い視野で追求、標準類や認定制度 も拡張されてきました。プロジェクトマネジメントは基より、 PM職が担う世界を広げ、支援し成長させる道筋が、体系的 かつ実践的に提示される点に魅力を感じています。

PDU取得で認識の進むTalent Triangleは、将来を担う PMに求められるコンピテンシーを、明解に定義しています。 デジタル化、IoT、破壊的イノベーション等々、業界の境界 線を越え競争が激化するグローバル社会において、PMのあ るべきロールモデルを鮮明に提示するPMIの先進性や価値 を、日本の現場で闘う多くのPMたちと共有し、共に成長し ていきたいと考えております。

Column/他国カンファレンス

■ LIM 2016 EMEA に参加して

PMI 日本支部 副会長 片江 有利

スペインのバルセロナで2016年5月6日から8日にPMI® Leadership Institute Meeting (LIM) 2016 EMEAが開催され、参加しましたので概要を報告いたします。

初日の午前中にはリージョン別の会議が行われ、実質のオープニングは午後から開催となりました。オープニンググキーノート・セッションは、「Collaboration is the New Leadership」と題してRené Carayol氏の講演でした。René Carayol氏は、「マネジメントは戦略、計画、業務、プロセス、ハードウェア、IQが対象、一方リーダーシップはビジョン、人、チーム、カルチャー、ソフトウェア、EQが対象」と定義したうえで、代表的なリーダーを例にマーチン・キング牧師「エナジー」、Mac の Chief people officer David Fur氏「コラボレーション」とリーダーシップのキーワードを解説していきました。

リーダーシップとは「VUCA (Volatile (気まぐれ)、Uncertain (不確実)、Complex (複雑)、Ambiguous (曖昧))」に対し「SPIKE (Strengths (強み)、Positively (積極的に)、Identified (固定された)、Kick-start (促進) Excellence (優秀)」を示すことが必要。マネジャーは戦略を語り、リーダーはストーリーを語らねばならない。オバマ大統領のSPIKEは「Yes

We Can.」、義足を無償で供給するインドのジャイプールフットという NPOの SPIKE は「Learn, Unlearn, Relearn」と講演を締めくくりました。

引き続き行われたPMI理事会 Antonio Nieto 議長とMark Langley President & CEOによるオープニング・ゼネラルセッションでは、まず理事会メンバーの紹介があった後、LIM2016EMEAには69カ国、81支部(Chapter)から304名が参加している旨の紹介がありました。以下、紹介された「各マーケットについての取組」をまとめました。

- PMIの現状は207カ国、293支部、会員数480,164名、 有資格者762,700名 と順調に拡大している。
- ○2016年は「Practitioners」、「Organizations」、「Academics」の3つを重点マーケットとして注力する。
- ○まず「Organizations」については、プロジェクトマネジメントに対する価値観が低下しており、特にPPPM価値の向上に向けて行政、NPO等組織、企業と連携を行い価値向上のプログラムを展開している。(米国政府、duテレコム、ヒューレットパッカード、Linked in等と連携)。
- ○「Academics」については、現在103校あるGACの拡大、



会場の風景



豪州支部 Annie Sheehan と



スペイン SNS 取材風景

■LIM 2016 EMEA に参加して

これまでPMに関心が無かったビジネススクールへのアプローチ(既に2校)、学部レベルの学生向けカリキュラムの開発、PMIへのゲスト・パスの検討、PMIefによるコンテンツの充実等を展開している。

○「Practitioners」については、キャリアの中でPMI関連 資格が価値を持っていることを訴求する他、正しいタレ ントが不足していることがビジネスの結果に影響を与 えている調査が示す通り、QCDが未達というプロジェ クトが3割もある現状を踏まえ、タレント・トライアン グルの推進を通じPMのレベルアップを図る。またBA、 リクワイヤマネジメントと実務標準やコミュニティの拡 大、プロジェクトマネジメントドットコムを通じたウェ ビナーの充実、メンバーシップ・アプリケーションやコ ミュニケーションの見直しも検討されている。

これらを通じてPMIのコアバリューである「PM Impact "Professionalism" Volunteerism" Community" Engagement"」を展開し、SIM(Strategic Initiative Management)等を活用して「Worldwide, organizations will embrace, value and utilize project management and attribute their success to it.」というPMI Envisioned Goalを達成していくと宣言していました。

また、Michael DePrisco氏からは「Connections: PMI and Your Chapter」と題し、PMIがリーダーをどのように支援するかという観点からリージョン・メンター制度等の紹介がなされました。

2日目はエデュケーショナル・セッションとして下記①~ ⑤の5セッションを、3日目は⑥~⑨の4セッションを受講 しました。

- ① PMI and Chapters: Evolving the Profession Together
- ② Strategies for Onboarding: How to Accelerate through the Transition Process
- ③ Engaging University Students
- ④ Engaging schools, Youth, and Non- Governmental Organizations to Build the Future Project Management in Your Community
- ⑤ The Importance of Having a PMI Chapter Multi-Year Business Plan (MYBP)
- ⑥ Multi-criteria Decision Analysis: A very powerful Tool for Chapter Leaders

- ⑦Successful Stories: Academic Outreach in Higher Education
- ® Leadership Mindset and skills to Create a Collaborative Culture in Your Chapter
- 9 How to Craft a High-Performing Chapter Board

この中で興味深かったセッションは②と⑤でした。

②はPMI Chapter Leader's Guide: Strategies for Onboarding and Transitioning編を活用してプロセスや取組内容の説明を行ったのち、テンプレートを活用して支部ボードメンバーとしての役割、何をやるか、どんなリソースが必要か、いつまでにやるか、支援はどうするかといった項目を実際に記入してテーブルメンバーと意見交換するワークショップでした。GuideのVolunteer Role Delineation Study Results編と合わせて活用を検討しても面白いのではないかと思いました。

⑤では支部の中期計画の策定方法についてプロセスの説明がありました。手法としては日本支部の2014年~16年中期計画の策定方法と同じでした。なお、講演者にお願いして当スライドを入手しミッション委員会に提供しました。

また③・④・⑧とAcademicについて、各階層の教育内容、アプローチ方法等現状の説明は興味深いものでした。ポーランドからはユース世代のサマー&ウィンターキャンプ、スロヴェニアからは大学、フランスからは大学院・ビジネススクールといったターゲット別に取り組んだ方法が紹介されました。まず、ターゲットとしてPMに興味関心のある教授を探し、PM教育の拠点を作る。また、教材はPMIefのものを活用して、講師養成は支部メンバーが行い教育の定着を図る。この「点」を「面」へ拡大展開していく手法は共通でした。実際に受講した学生の声も、「プロジェクトマネジメントを学びインターシップ時に企業から高評価され実際に役立つ」ということで、受講者を増やしているようです。

そして3日目のクロージング・キーノートでは、Kevin Kelly氏が「Lead Like You Live It」と言う題目で講演しました。 リーダーシップの真空状態では、特別なロールモデルを見つ けることが課題です。リーダー創出のため、ロールモデルを 見つける方法論について論じていました。

このほか、1日目、2日目の夜のネットワーキングや休憩 時間に他支部リーダーと交流を図ることができました。

さらに私はGlobal Congressの1日目にも参加しました。

Column / 他国カンファレンス

■LIM 2016 EMEA に参加して







ベルリン支部会長 Oliver Lehmann と



英国支部 Joanna Newman

キーノートスピーチはグーグル、デル、GE等の前エグゼクティブであるIsabel Aguileraが、デジタル・ディスラプションの事例紹介とその変化への対応としてタレントとの発掘・登用、意識改革、イノベーティブなフィロソフィの共有といったプロセスを経てリーダーを変化させることが必要であるとした講演でした。日本フォーラムも基調講演でJISA横塚会長と西野氏が、同様の主旨で講演される予定なので、日本フォーラムのプログラム・ビルドも時宜に適ったものであることを再認識しました。

セッションとしては、以下の3つを受講しました。

- ① Build Change intelligence to Bridge the Gap Between Strategy and Execution
- ② Global Work Force Effects on Knowledge Transfer
- ③ Change Agility across Different Cultures

①では、70%のチェンジは失敗している。その結果、投資の損失、顧客の失望、従業員のシニシズム、組織の停滞等を引き起こしている。原因はトップマネジメントの支援が無いこと、組織の力量を超えた実現不可能な期待、何故変えなければならないかという意識の欠如等が挙げられる。チェンジを推進するための方法論、チェンジ・インテリジェンス(CQ)によるマインドセット等が提示されました。

②は日本支部からベルナベ・ロザリンダ氏がエントリーし 講演したもので、応援の意味も込めて参加しました。グロー バル時代、知識や情報をどのように伝達するかについて、体 験をまとめた方法論の提示と参加者との意見交換という内容 でした。セッション終了後に聞いてみたら、本人は緊張して いて思ったように出来なかったとのことでしたが、講演はもちろん意見交換の進行もうまく裁いていたと思います。

③はチェンジ・アジリティの説明でした。 異文化の垣根 を越えてチェンジ・アジリティを推進するには、組織構成員 の取り組み姿勢のベクトル合わせ、コミュニケーションが重 要だが、構成員の国別に取り組み姿勢が異なるので、特性を 理解した組織運営は不可欠。取り組み姿勢について、リニア・ アクティブ、マルチ・アクティブ、リ・アクティブに分類し た視点は面白く感じました。 因みに日本人はリ・アクティ ブに分類されています。この手の異文化コミュニケーション のための類型化はコングレス等で良く発表されます。以前イ タリアの多国籍企業でもやはり国別による取組姿勢の類型化 を行い、メールの指示を類型化によりパターン分けして行う ようガイドラインを作成していました。血液型や以前流行し た動物による類型化と何となく同じ感じがして、納得感があ る訳ではないのですが、多様なメンバーとのチームビルディ ング、コミュニケーションのヒントとして活用されているこ とは理解できます。

なおコングレスのエントリーに際し、受講するセッションがタレント・トライアングルのカテゴリーに照らしてどこのPDUが取得できるかの一覧表があって、セッションを選択するとカテゴリー別の取得PDUの合計が自動計算される機能がありました。来年度の日本フォーラムでも同様の機能を提供できればと考えています。

片江副会長 インタビュー動画 ベルナベ氏 発表風景 動画

■2016 PMI 韓国大会に参加して

PMI 日本支部 理事 鈴木 安而・中嶋 秀隆

韓国のソウルで、2016年5月13日に、第4回PMI South Korea Conferenceが開催されました。これに参加してきましたので概要を報告いたします。

ソウルの繁華街の南側に位置し、広々とした緑地の中にある大きなThe K Hotel。会場は、そのホテルの別館2階の会議室です。参加者の総数は135人で、韓国以外からは中国、台湾、香港、モンゴル、PMI AP(シンガポール)、そして日本です。

Conference は1日だけでしたが、会議の冒頭、PMI韓国支部会長の引き継ぎセレモニーが行われ、会長職が初代のYoung Min Park氏から、第2代のKwang Ho Choi氏にバトンタッチされました。

午前中には3つの基調講演があり、キーメッセージは次のようなものでした。

- 1) 韓国造船業は今、苦境にある。その理由として、注文を 取れるだけ取ったがPMができないので注文をこなせな いことが挙げられる。PMの普及を急がねばならない。
- 2) 韓国にも多くの災害があるが(含、橋の崩壊、セオ

ル号の転覆、地下鉄事故など)、リスクについては、 "Preparedness"が鍵となる。リスクを登録簿に洗い出し、 その上位7-10につき、緩和策を講じることで、パフォー マンスは大きく改善される。

3) リスク・マネジメントは1回だけの活動ではなく、プロジェクトのライフサイクルを通じて行うものである。

その後、PMIアジア・パシフィック、中国、日本、さらに 台湾から最近の状況につきプレゼンがありました。日本支部 からは、最近の津波や地震に対する日本人の対応と再起する 力(resilience)について、中嶋が発表しました。

昼食はPMIアジア・パシフィック主催でRegion 9(韓国、 台湾、中国、モンゴル、日本)のリーダー会議があり、鈴木 と中嶋が参加しましたが、Region 9のメンターである神庭 氏も日本からSkype で参加されました。

午後には2つの分科会が行われました。Track-AのテーマはIndustry 4.0 / Value Creation / Lessons Leaned)、Track-BのテーマはRisk Management I / PMO)です。Track-B に



会場の前で(鈴木と台湾支部会長・Choi氏)



会場の前で(中国支部理事・Liu氏と鈴木・中嶋)

■2016 PMI 韓国大会に参加して



発表の様子 (PMI AP)



発表の様子(インダストリー4.0)

は韓国語のみ(英語通訳なし)とのことで、鈴木と中嶋は Track-A の発表に耳を傾けました。以下、ポイントを要約し ます。

1) Trends in Europe for Industry 4.0 and its reference, by Bosch Rexroth

「インダストリー4.0」とは何か、なぜ必要か、どのよう に作動するのか。さらにドイツでの現状とこれからの展望に つき、ボッシュ社の工場内の稼働状況(動画)を交えて、説明。

2) Agile methodology application on Big Data visualization analysis

Big Data をアジャイル・プロジェクトに取り入れた手法を紹介していたが、CSPI社の統計的手法であるSpotfireの紹介が中心であった。

3) How to use the NATO's Lessons Learned

NATO (北大西洋条約機構) が開発した教訓プロセスの紹介。 Waterfall型による教訓の分析とHill Climbing による分析を 対比させていたことが興味深い。テキストがハングル文字ば かりだったので詳細を把握できず、残念。

4) System analysis and design, applying projects based learning

大学でのPBLの取り組みの実体験と観察された課題の発表。PBLか有効であることは観察されたが、その効果に疑問をもつ教授や学生(単位がほしいだけ)もいるとのこと。

5) Project management to learn in the adventure and explore world to create the new value

R&Dにおける製品開発にビジネス価値を取り入れたプ

ロジェクトマネジメントの説明。そこから R&Dを R&BD (Research and Business Development) へと発展させていた。それをモデル化して NABC (Needs-Approach-Benefit-Competition) という概念を作り上げている。 NABC を反復させてプロジェクトを進捗させるというプロセスの説明があった。 R&D にはアジャイルが有効かもしれないというコメントがあった。

6) Project management strategy learnt from Mars reconnaissance: How does NASA prepare Mars reconnaissance?

火星探査につき、科学者チームと一緒に活動した探検家による説明。シミュレーションのサイトとして、火星と類似点がある西オーストラリアのピルバラが選ばれたこと、火星探査期のエネルギーとしては太陽発電とともに原子力が使われているとのこと、火星のメタンガスの観測には、ハワイの望遠鏡群か活用されていこと。科学者チームの面々は、研究に情熱を燃やしつつ、ユーモアのセンスを忘れずに、地道な活動(PCではなく紙と鉛筆を使う)をしているとのこと。

閉会にあたり、ボランティアに感謝状が贈られ、福引きと 名刺集めコンテストの勝者に贈答品が贈られました。

総じて、こぢんまりしたConferenceで、スムーズに運営されていました。2つの分科会のうち1つが英語で行われていたことは、日本での開催にも示唆に富むと思います。Chapter 9の各国の関係者と交流できたのも、有益であったと考えています。

Column / 他国カンファレンス

■2016 PMI 韓国大会に参加して



会場の風景



発表の様子(R&D)



発表の様子 (火星探査)



ボランティアへの感謝状授与

Activities / 支部活動





一般社団法人 PMI 日本支部 主催

PMI日本フォーラム 2016 のご案内

今年も7月9日、10日の両日にわたり「PMI日本フォーラム2016」を開催する運びとなりました。これもひとえに会員各位ならびにフォーラム・スポンサー組織の皆さま、日ごろPMI日本支部の活動にご支援いただいている関係機関の皆さまのご支援の腺物と深く感謝申し上げます。

さて、2016年は中国経済の減速や人民元安、中東諸国での紛争激化による 不安により、年初から世界同時株安が続き波乱の募開けとなりました。国内の 所得、車販売、消費支出などの主要経済指標が軒並み停滞基調にある中、この 先も中国をはじめとする新興国等の景気の下振れ懸念のほか、地政学的な不確 実性等も相まって、アベノミクスの成果を打ち消すような不透明感が漂ってい ます。とは言え、経済活動を支える技術革新や新規事業への取り組みは、厳し い競争の中でも絶え間なく続けられており、ひと時たりとも休む暇はありま せん。ビッグデータ、IoT、AIの発展や社会インフラの輸出に代表されるよう に、産業界はもはや単体としての技術や製品ではなく、異なる領域を有機的に 結合して新たな価値を生み出す方向に向かっています。こうした中で、組織 的・体系的・効率的に目標を達成するには、従来の個別のプロジェクトを失敗 させないという姿勢の取り組みだけでは実現できないと言えましょう。目標を 設定する戦略に基づくポートフォリオやプログラムを通して、個々のプロジェ クトを戦略や目標に整合させることが欠かせなくなっています。さらに、企業 は、従来の組織を大きく変化させたとしても、新たな仕組みや価値体系を取り 入れなければ生き残ることは出来ません。そのために、組織を有機的に変革で きる人材や手法が強く求められています。このような流れに対しPMI本部は、 PPPM/OPMからBAに至る一連の成果を戦略的に展開しています。日本支部 ではPMI本部が提供する最新の標準やレポートを会員の皆さまにより広く共 有していただくため、翻訳と日本語版の出版、WFRへの掲載、セミナーの開 催を行っています。これは、個々のプロジェクトにとどまらず、企業戦略の文 脈の中でプロジェクトを捉えていただくことが極めて重要と考えている所以で す。今年の日本フォーラムのテーマは「CHANGE & INNOVATIONの時代に 何をなすべきか」。今を生きる我々に課された環境は激しく変化しており、厳 しい環境下で変革を成し遂げて成果を出すリーダーは、何をどのように捉えて 現場をリードしてきたのか。今年もこの大命題に対するヒントを示唆いただけ る方々を招請致しました。PMI日本支部を含むPMIの活動は全てがボランテ ィアに支えられております。会員ならびに関係各位の並々ならぬ貢献に対して 重ねて心より感謝の意を表します。引き続き、PMI日本支部の活動にご理解と ご支援を賜るようお願い申し上げます。

参加費 (税込)

			参加費				
参加要項			PMI日本支部 会員	法人 スポンサー	一般		
	早割り料金	1日参加	17,000円	19,000円	29,000円		
セッション		両日参加	24,000円	28,000円	46,000円		
ピックョン	通常料金	1日参加	18,000円	20,000円	30,000円		
	地市村並	両日参加	26,000円	30,000円	48,000円		
1	初日交流会		3,000円	3,000円	3,000円		

申込みに関するお問合せはPMI日本フォーラム受付窓口へ

問合先: forum-2016@pmi-japan.org

フォーラム受講申し込みはPMI日本フォーラム 2016公式サイトから

CHANGE & H 本 フォーラン INNOVATION の 2 0 1 で 時代に何をなすべきか

 $_{\text{\tiny BMMED}}$ 2016年 $7_{\text{\tiny F}}9_{\text{\tiny E}}(\pm)\sim10_{\text{\tiny E}}(\pm)$

受付開始 9:30~(9、10日) 講 演 10:00~18:30(9日)

10:00~18:00 (10日)

交流会 18:45~20:30(9日のみ)

※交流会は、PMという同じテーマを抱えた同士が語り合うことでさまざまな ヒントを得ることを目的としています。初めての方も、ぜひご参加ください。

■講演会場 学術総合センター

■交流会会場 如水会館 (学術総合センター隣接)



学術総合センター 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 03-4212-6321 東京メトロ半蔵門線/都営地下鉄三田線・新宿線「神保町」 A6,9出口 東京メトロ東西線「竹橋」1b出口

- 支部会員の方はお得な支部会員料金でご参加いただけます。この機会に支部への入会をご検討ください。
- 早期申し込み割引制度 2016年6月8日(水)までに参加費お支払い完了の場合に、割引の料金で参加 できます。
- 参加費お支払い後のキャンセルはお受けできません。確実に参加いただけることを確認の上お申し込みください。
- お申し込みより10営業日までにお支払い未完の場合、断りなくお申し込みを取り消させていただく場合があります。
- PDU取得(受講証明)は、タレント・トライアングルの各領域でPDUが取得できます。 公式サイトの「参加要項・他」の「受講証明書」を参照ください。
- ご注意
- ①申し込みは1日単位です。半日単位や1講座のみの申込みはできません。②1日目:13時45分~18時30分、2日目:10時00分~18時00分は複数トラック方式のプログラムです。
- 受講申込みの際、参加を希望する講演を各時間ごとに選択してください

(日本語) https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2016/index.html (英語) https://www.pmi-japanforum.org/pmij2/forum-2016/e/index.html

■PMI日本フォーラム2016のご案内

プログラム構成 **7**月**9**日(土)

PMI日本フォーラム2016

	[メイントラック] [併設トラック]									
トラック名称	招待	PFM / PGM	人材育成	PM 一般/事例手法	PM —₩	アカデミック				
9:30 ~	3615	11117 1 G.I.I	受付開始		1111 22	7,33,233				
10:00 ~ 10:10	奥澤 薫 PMI 日本支部 会長		21300/1							
10:10 ~ 10:55 (45min)	横塚裕志 M-1 情報サービス産業振興会会長 「デジタル時代は破壊とデザイン」									
10:55 ~ 11:05			休憩	(10分)						
11:05 ~ 11:50 (45min)	西野 弘 ㈱プロシード 代表取締役 「デジタルビジネス イノベーションセンター構想」									
11:50 ~ 12:00			休憩	(10分)						
12:00 ~ 12:45 (45min)	Wagner Maxsen PMI 本部理事 「Talent Management: A Strategic Imperative」									
$12:45 \sim 13:45$			昼 休 み							
13:45 ~ 14:45 (60min)	廣谷彰彦 M-4 バシフックコンサルタンツグル ーブ㈱ 顧問 「コンサルティング・エンジニア の歩みと今後に向けて」	柏村象一郎 PFM/PGM 研究会 IPMI プログラムマネジメント 標準の概要および他の標準 (MSP/P2M) との比較」	教育委員会 「教育委員会の教育分野における ケバビリティ ~北海道大学新 渡戸スクールでの実践事例」	折口長雄 ステークホルダー研究会 「失敗を許されない 「主君仇討ちプロジェクト」 (忠臣蔵プロジェクト)」	庄司敏浩 ビジネスアナリシス研究会 「プロジェクトにおける ビジネスアナリストの役割」	Vittal Anantatmula ウェスタンカロライナ大学教授 「Project Teams: A systematic development approach」				
$14:45 \sim 15:00$			休 憩							
15:00 ~ 16:00 (60min)	棚合浩太郎 三菱電機域 三菱電機域 電差電影作所・宇宙システム第一部 「宇宙ステーション補始機 「こうのとり」(HTV) 量産宇宙機のプロジェクト マネジメント」	ト北季樹 PFM/PEM 研究会 「建設系事業の課題を プログラムマネジメントで 救えるか! 〜土壌汚染の課題から解明〜」	周森 潔 産業技術大学院大学 教授 「日本におけるプロジェクト マネジメントの特徴」	佐藤朋信・河野竹徹 ステークホルダー研究会 「プロジェクト成功を支援する PMツールの考察と、ステーク ホルダー・マネジメント」	西 紗奈江・柴田典子 女性 PM コミュニティ研究会 「女性 PM の働き方改革 ~ PM は休めない? ~」	森本千佳子 東京工業大学特任准教授 「東京工業大学における 2 つのイノペーション志向型 Project Based Learning」 三技省三・伊熊昭等 就実大学教授 就実大学特別講師 「長期インターシップ直前 PM 研修」				
16:00 ~ 16:15				(15分)						
16:15 ~ 17:15 (60min)	M-6 西畑一宏 集 NTT データ 取締役常務執行役員 「NTT DATA の世界への挑戦」	南塚 和 PFM/PGM 研究会 「自社の事業戦略・ ボートフォリオ策定における	B-3	屋上千佳子 日本クイント県 代表取締役 [DevOps Agile Skills Association (DASA) と 主要概念のご紹介]	D3 藤本 園里康典 関西ブランチ 連営委員会 「ブランチ連営と価値提供の変化 〜ワークショップの紹介と 実演〜」	バネル モデレータ: 青藤 学 PMI日本支部理事 バネリスト: 飯尾 淳 中央大学教授 上西路介 大阪大学学院教授 加路3介 金沢工大教授 貝増匡俊 神戸女子大進教授 「PM 教育の必要性とその導入に ついて」				
17:15 ~ 17:30										
17:30 ~ 18:30 (60min)	M-7 坪井純子 キリン機 執行役員 ブランド戦略部長 「多様性とイノペーション ~IT時代のマーケティングを 模索する」	近腰 浩 PFMVPGM研究会 Part-1.人材ポートフォリオの 動向/Part-2.小誌「ザ・ゴール」 のベネフィット」	宮島賢悟・利根 章 法人スポンサー・人材育成 SG 「できるブロジェクト・マネジャー の・人間力・とは ~人格コンビテンシー向上の探究~」	根原憲昭 ケブナー・トリゴー・ ジャパン、LLC マーケティング&ソリューション 開発事業部長 「システム開発・運用における トラブルの根本原因究明 プロセス改善の取り組み」	D-4 意本 鬼束孝則 セミナーブログラム・ ドセミナーブログラム・ ボランティアに見る 人的ネットワークの広げ方」	バスル モデレータ: 斉藤 学 PMI 日本支部理事 バネリスト: 飯尾 淳 中央大学教授 上西啓介 大阪大学大学院教授 加藤湖介 金沢工大教授 関値度 神戸女子允准教授 IPM 教育の必要性とその導入に ついて				
18:30 ~ 18:45			移 動	(15分)	I					
18:45 ~ 20:30			交流会((110分)						

7月10日(日)

/月10日	日(日)									
	【メイントラック】 【併設トラック】									
トラック名称	招待	PMO/リスク/PMBOK®	事例・手法/OPM	事例・手法	PM一般	アカデミック				
9:30 ~	受付開始 (9:30~)									
10:00 ~ 11:00 (60min)	M-8 除村健俊 像リコー 理事 「リコー環境事業開発センターの 概要と環境ビジネス創出の 取り組み」	小山恵一郎・佐藤美一 中級 PMO研究会 「大企業A社の事例研究と 今後のPMOの動向」	伴 和子 翻訳・出版委員会 「PMI 白書が明らかにする理想の 新しいPM像 ~ PMI 白書5本 立て・タレントトラアングルと PDU取得方法も解説~」	今仁武臣 法人スポンサー・ グローバルPMSG マローバルプロジェクト マネジメント・ハンドブック 概要」	ソーシャルPM研究会 「ソーシャルPM研究会活動報告 ーソーシャルプロジェクト	井上雅裕・丸山智子 芝浦工大教授 愛媛大学特任助教 「体系的なアクテイブ・ ラーニングによる リーダーシップ教育」				
11:00 ~ 11:15			休憩	(15分)						
11:15 ~ 12:15 (60min)	西田浩一 日本IBM (横) 東京基礎研究所 技術理事 「IBM Watson とコグニティブ・コンピューティング」	松井 淳	野村和哉・野口啓一郎 中級 PMツール研究会 「PMツールとしての ビジネスモデルキャンパス」	前田和哉 eProject (株) CEO 「人材開発分野で活用できる インストラクショナル・ デザイン (原理・理論と事例)」	中谷英雄 ツーシャルPM研究会 「CSV時代における ソーシャルPMの必要性」	宮原勅治・山本智子 川崎医療福祉大学教授 川崎医療福祉大学教授 「教育現場へのプロジェクト マネジメント教育手法の導入」				
12:15 ~ 13:15			昼 休							
13:15 ~ 14:15 (60min)	山鳥宗義 名古屋大学医学部附属病院 病院 長補佐・メディカルITセンター 長・病院教授 「未来に向けた医療ITの構築」	森 道夫・芳賀和郎 F3 リスクマネジメント研究会 中級 「デスマーチブロジェクトの 要因と事例 デスマーチ ブロジェクトの対策と リスクマネジメント 第一部」	泉澤聖一 EVM研究会 [EVMをアーンドスケジュール と連携する統合マネジメントの 有用性]	ル久保久子 (サーデシュムフ ブージャ IRC研究会 「PMBOK®ってどう? (実際、聞かなきゃわからない)」	当麻哲哉・Vittal Anantatmula 慶應義塾大学大学院教授 ウェスタンカロライナ大学教授 「GAC 認定プロセス徹底解説 〜自己評価レポートの書き方」				
14:15 ~ 14:30			休憩	(15分)						
	中之坊健介 近鉄不動産㈱アセット事業本部 バルカス連営部 連営部長 「あべの) バルカス ブラックト へ検討開始から完成まで、 その先に目指すもの~」	梅津 崇・山本和男 リスクマネジメント研究会 「デスマーチブロジェクトの 要因と事例 デスマーチ ブロジェクトの対策と リスクマネジメント 第二部」	金子啓一郎・渡辺敏之 PMCDF実践研究会 「プロジェクト・マネジャー及び プログラム・マネジャーの 育成に向けた課題 〜グローバル調査及び国内調査 結果の比較からの気づき〜」	山本政樹 関エル・ティー・エス 執行役員 「なぜアジャイルによる 業務システム開発が 上手くいかないのか 〜プロダクトオーナーを育てる ためのピジネスアナリシス〜」	「教育組織と医療組織の 比較による医療プロジェクト	無田高道・伊藤大輔 青山学院大学教授 青山学院大学非常勤講師 「青山ビジネススクールに おける PM 教育」				
15:30 ~ 15:45			休憩	(15分)						
15:45 ~ 16:45 (60min)	M-12 前野隆司 慶應義塾大学大学院 SDM 教授 「イノベーションを 起こせる人と組織とは?」	F.5 中級 PMBOK®委員会 「PMBOK® がイドを業務で 使いこなすには」	河々谷健一・斉藤真秀 G-5 組織的PM研究会 「OPM3® 組織イネーブラベスト ブラクティス徹底解説 〜組織にプロジェクトマネジメ ントを導入するには、 何から始めるべきか〜」	勝連城二・細谷真奈美 関西プランチ PM創生研究会 「これだけでOK! プロジェクトマネジメント" ~若手PMでも使える PMI標準の実践的な活用方法~」	渡邊恒文 PM用語委員会 「ブロジェクト・マネジメントに おける主要用語」	澤部直太 徳三菱総合研究所 社会にて事業本部 主席研究員 「MRIにおけるプロジェクト マネジメント人材育成の取組と 大学教育への期待」				
16:45 ~ 17:00			休 憩	(15分)						
17:00 ~ 18:00 (60min)	門田睦雄 ㈱日建設計 設計長 「科学技術立国を 施設設計から支える (ノーベル賞受賞のアシスト)」		池田修一・田島彰二 組織的PM研究会 「組織の価値を最大化させる OPMガバナンス」	版村北海・木村卓央 アジャイルPM研究会 「アジャイルプロジェクト マネジメント意識調査報告 2016」	組織拡大安員会 「拡大するプロジェクトマネジメ	白坂成功 慶應義塾大学大学院教授 「システム×デザイン思考による イノベーティブ思考の実現」				

PM Calendar / PM カレンダー

PMI 日本支部のイベントならびに PM 教育関連セミナーなどの案内です。 詳しくは、PMI 日本支部の Web サイトをご参照ください。

【ホームページにて公開中】

■ PMI日本支部関連セミナー

●デザイン思考基礎

~ 優れた顧客経験(CX)を提供する ~

• 日時:7月28日(木) 9:30~18:00

•場所:PMI日本支部セミナールーム

7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● アジャイル プロジェクト スタートアップ入門

~ 見積り・計画編 ~

• 日時: 7月29日(金) 9:30~18:00

•場所:PMI日本支部セミナールーム

7PDU、ITC実践力ポイント7時間分

● 9月度 月例セミナー

全体最適のプロジェクトマネジメント

~ 月曜日が楽しみな会社にしよう! ~

• 日時: 9月9日(金) 19:00~21:00

• 場所: アクセス渋谷フォーラム

2PDU、ITC実践力ポイント2時間分

●第5回 ソーシャルPM実践ワークショップ

~ ソーシャル・ビジネスモデルデザイン実践 ~

• 日時: 8月27日(土) 10:00~17:30

•場所:PMI日本支部セミナールーム

• 参加費無料、PDU受講証明書の発行無し

●【大阪開催】PMBOK®セミナー 第5版対応

• 日時: 9月17日(土) 9:30~18:50

18日(日) 9:30~17:40

• 場所:大阪市中央区

14PDU、ITC実践力ポイント14時間分

■ PMI 日本支部関連イベント

● PMI 日本フォーラム 2016

日時:2016年7月9日(土)・10日(日)

•場所:学術総合センター(東京・神保町)

リモート中継:①大阪市北区

②名古屋市昭和区

12PDU、ITC実践力ポイント12時間分

● PMI Japan Festa 2016 (予定)

• 日時: 2016年11月5日(土) · 6日(日)

•場所:慶應義塾大学日吉キャンパス

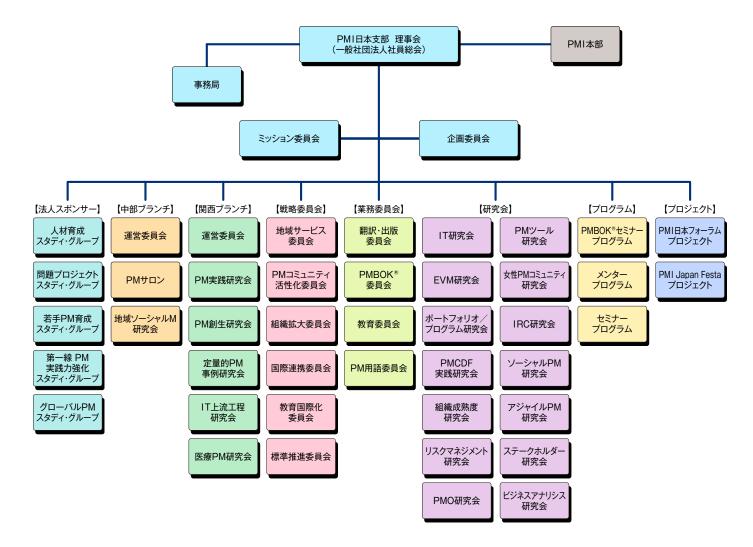
協生館藤原洋記念ホール(横浜市)

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。 PMI 日本支部ホームページで確認をお願いいたします。 (https://www.pmi-japan.org/event/)

Lact Database / データベース

PMI 日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2016年6月現在)



理事一覧 (2016年6月現在)

会 長 :奥 澤 薫 (KOLABO)

副会長 : 片 江 有 利 (株式会社プロシード)

副会長 : 端 山 毅 (株式会社NTT データ ユニバーシティ)

(以下、五十音順)

理 事 (PMコミュニティ活性化担当): 麻 生 重 樹 (日本電気株式会社) 理 事 (教育国際化担当) : 井 上 雅 裕 (芝浦工業大学)

理 事(企画、地域サービス担当) :浦田有佳里 (株式会社HS情報システムズ)

理事(地域サービス担当) :木南浩司(株式会社マネジメントソリューションズ)

Fact Database / データベース

理事(教育国際化担当) : 斉藤 学(Skylight Consulting Inc,)

 理 事 (国際連携担当)
 : 杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)

 理 事 (ミッション、標準担当)
 : 鈴 木 安 而 (PMアソシエーツ株式会社)

理 事(ミッション、組織拡大担当):武 上 弥 尋 (日本アイ・ビー・エム株式会社)

理 事 (PMコミュニティ活性化担当): 高 橋 正 憲 (PMプロ有限会社)

理 事 (PMコミュニティ活性化担当): 竹 内 正 興 (一般財団法人国際開発センター)

理 事(PMコミュニティ活性化担当): 当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)

理事(組織拡大担当) :徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォーメーションアカデミー)

理 事 (標準担当) : 中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)

理 事(国際連携担当) :福本伸昭(日本アイ・ビー・エム株式会社)

理 事(財政担当) :三 嶋 良 武 (株式会社三菱総合研究所)

理事(企画、組織拡大担当) :森田公至(日本アイ・ビー・エム株式会社)

 理 事(国際連携、標準担当)
 : 除 村 健 俊 (株式会社リコー)

 監 事
 : 神 庭 弘 年 (神庭PM研究所)

 監事
 : 平石謙治 (ビー・ティー・ジー・インタナショナル)

 監事
 :渡辺善子 (株式会社日本政策金融公庫 社外取締役)

■最新の会員・資格者情報 (2016年4月30日現在)

△ 5	 員数	資格保有者数								
本5	マダン	PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	PfMP®	PMI-PBA®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
479,337人	3,246人	720,078人	33,348人	4人	7人	4人	15人	2人	3人	89人

■行政スポンサー (2016年3月現在)

- 三重県 桑名市
- 滋賀県 大津市

■法人スポンサー 一覧 (103社、順不同、2016年6月現在)

• TIS 株式会社

日本アイ・ビー・エム株式会社

• 株式会社 NSD

• 株式会社プロシード

• 株式会社インテック

• キヤノンITソリューションズ株式会社

• 日本電気株式会社

• 株式会社ジェーエムエーシステムズ

• アイアンドエルソフトウェア株式会社

• 株式会社 NTT データ

• 日本マイクロソフト株式会社

• プラネット株式会社

• 株式会社建設技術研究所

• 日本ユニカシステムズ株式会社

- 株式会社クレスコ
- ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- 日本ヒューレット・パッカード株式会社
- 株式会社アイ・ティー・ワン
- コンピューターサイエンス株式会社
- 株式会社タリアセンコンサルティング
- TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- 株式会社大塚商会
- 日本プロセス株式会社
- 株式会社 NTT データ関西
- 日本ユニシス株式会社
- Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- IBCC 株式会社
- 株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- 日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社
- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研 DCS 株式会社
- ・ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウエア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NEC ネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社 ISOL
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- 住友電工情報システム株式会社

- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- TMI ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC 株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- 株式会社 TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社 HGST ジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK 株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- 株式会社東レシステムセンター
- ビジネステクノクラフツ株式会社
- 株式会社シティアスコム
- 損保ジャパン日本興亜システムズ株式会社

- 株式会社エル・ティー・エス
- 株式会社日立産業制御ソリューションズ
- MS & ADシステムズ株式会社
- 日本クイント株式会社

- 第一生命保険株式会社
- リコージャパン株式会社
- 株式会社 HS 情報システムズ

■アカデミック・スポンサー 一覧 (34教育機関、登録順、2016年6月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- ・北海道大学 サステイナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校

- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジ メント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科
- 川崎医療福祉大学医療福祉マネジメント学部 医療秘書学 科および大学院医療秘書学専攻
- 青山学院大学 国際マネジメント研究科
- ・公立大学法人 公立はこだて未来大学
- ・大阪府立大学 21世紀科学研究機構 産学協同高度人材育 成センター
- ・慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
- 就実大学 経営学部
- 神戸女子大学 家政学部 家政学科

Editor's Note /編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- ■今号・次号では、2014年度から継続して活動している理事・監事17人のご挨拶を掲載します。今号ではまず8名(あいうえお順) を掲載しました。
- ■2016年5月6日から8日に開催された、PMI® Leadership Institute Meeting (LIM) 2016 EMEAに参加した片江副会長から、その概要を報告いたします。その中で、日本支部会員として参加したベルナベ・ロザリンダ氏の講演風景を動画でお伝えしています。
- ■また、5月13日には、第4回PMI South Korea Conferenceが開催されました。これに参加した鈴木 安而・中嶋 秀隆の両理 事からその概要を報告いたします。
- ■7月9日・10日に開催する「PMI日本フォーラム2016」が間近に迫りました。今年は大阪に加えて名古屋でも基調・招待 講演の同時中継を行います。東京会場にお越しになれない方は、是非同時中継会場にお越しください。

ニューズレター編集担当から読者の皆様へお願い

ニューズレターは、皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。お気軽にPMI日本支部事務局宛てにお送りください。

PMI 日本支部ニューズレター Vol.67 2016年6月発行

編集・発行:PMI日本支部事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL: 03-5847-7301 FAX: 03-3664-9833

E-mail: info@pmi-japan.org

ホームページ:https://www.pmi-japan.org/

(非売品)